



なつかしい顔探せましたか
 第24回東京鶴翔同窓会
 合同同窓会の楽屋裏

十年先輩の温厚な中野薫さんから、急な電話を頂いた。「どうして田中浩会長のお顔写真を取り違えちゃったんですか。いささかむっとした調子に、とっさに返答できない。」

『鶴翔』23号の編集作業は、中野さんが一手に引き受けて下さった。ただ最終校正で、海外旅行とスケジュールが重なったため、後事を小生とさらに十年後輩の石向隆君に託したら、こともあろうに南高前校長先生の写真と間違えてしまうなんて、というお叱りである。同窓会開催

まであとわずか。刷り直してもきない。「とにかく、私がお会長の所に謝りに行きます」と中野さんはあくまでも几帳面だった。

第23回東京鶴翔同窓会は五年ごとに開かれる如松会との合同同窓会である。代表幹事の植木清哉さん始め5の年次の気合は十分だった。会報編集は55回卒業、その協賛広告集めは65回卒業、その協賛広告集めは65回卒業、その協賛広告集めも分担した。

テーマは「五年目のめぐり合い」なつかしい顔を探して」に決まった。



丸田孝明君、鈴木伸夫君など75回卒の面々は在郷同期生の協力を得て、南北両校、開山千四百年の羽黒山、そして鶴岡周辺の風景を撮影したビデオテープの制作・販売、ポラロイドカメラによるスピードスナップ写真販売、東京一庄内往復航空券やホテル宿泊券などが当たる抽選会などのイベントの中味を次第に充実させた。

65回卒は菅生昭君の社屋会議室を夕方から借り、協賛広告依頼文書の発送や出席者の名札整備などの作業をした。今回から広告単価が五千円アップしたに

もかわらず、目標の六十社分を越すことができたのは、関係各社のご理解ご協力とともに、仕事そっちのけで電話を掛けまくった加藤有絢君の押しがあったからだ。

最終打ち合わせでは、十七人にも及ぶ招待者への配慮、高齢参加者への椅子席、果ては集金時の釣り銭準備までこと細かな気配りをして頂いた植木代表幹事のキャリアが大きくものをい

かくして第23回東京鶴翔(第4回如松合同)同窓会は五月六月二十日に開かれ、五百人の参加を頂いたのだった。

(65回卒T生)

(写真・次回東京鶴翔同窓会幹事の6の年次卒の皆さんと如松会次期幹事ら)

平成5年度東京鶴翔同窓会収支決算書
 (平成5年1月1日~12月31日)

①一般会計		②特別会計	
収入の部	支出の部	収入の部	支出の部
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	109,728	総会費	2,702,375
総会費	1,333,000	事務費	908,851
年会費	1,031,800	(印刷費)	519,683
広告費	2,204,279	(通信費)	389,168
雑収入等	462,023	会議費	249,809
(祝金等)	460,000	その他	106,230
(預金利息)	2,023	(祝金)	70,309
		(その他)	35,921
		次期繰越金	1,173,565
	5,140,830		5,140,830

ご寄付ありがとうございました。
 一 金 三万円
 忠鉢 元(66回)様

新本館「楽山楽水」オープン—全館150室・900名様
 政府登録国際観光旅館
 (登録旅館第159号)

山形県・あつみ温泉
萬田屋
 ばんこくや

〒999-72
 山形県西田川郡温泉町湯温泉丁1 TEL0235(43)3333(代)
 TELEX 8744-72 FAX0235(43)2277

陽光に映える白壁と樺並木が語る庄内米百年の歴史
庄内米歴史資料館
 山居倉庫内 酒田市山居町一丁目1の8
 電話 0234(23)7470



題字は初代会長 故田倉八郎氏筆
第24号
 発行所 東京鶴翔同窓会
 東京都千代田区内神田2-16-9(〒101)
 庄内銀行
 東京支店内
 TEL03-3256-8911

故郷と手を結ぶ
 印刷所
 株式会社 一芳タイプ
 代表取締役 長谷川勝一(59回)
 新宿区筑土八幡町31番地
 第一芳栄ビル
 TEL 03-3235-2691(代)

第二十四回 東京鶴翔同窓会のご案内

七月九日は、
 『米…、庄内に感謝する一日』です。

庄内米で育った私たちに、今年の「米騒動」は、故郷を思い出させ、あらためて田舎のありがたさを実感させました。

そんななか、きたる七月九日(土)に、私たちが育んだ故郷・庄内に感謝する一日と題して東京鶴翔同窓会を開催することになりました。

料理は東京會館のフランス料理
 もりだくさんのイベントも企画しています。

- 庄内米を使った特別メニュー
- 庄内を紹介したビデオ放映
- 最新物産展示即売
- 江戸屋敷紹介コーナー
- ふる里風景写真パネルコーナー

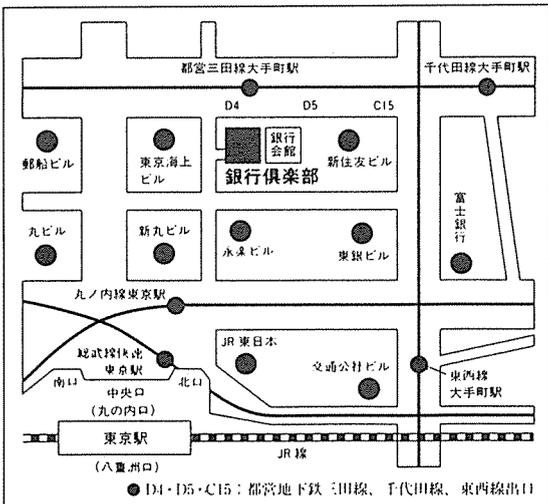
- 天童出身のキングレコード歌手「風見なぎさ」来場
- 吉統さんのスペイン舞踊も
- 庄内米地酒コーナー特設
- こまかぶり「栄光富士」で乾杯
- おみやげ酒も準備中

プロ歌手出演そしてカラオケデュエットも。

舞踊家吉統さんの振りのついた校歌合唱や、賞品が当たる抽選会、記念撮影会、庄内米の現状報告レポートコーナーなども予定しております。

クラスメイトや同窓仲間をお誘いの上、多数ご参加下さるよう心待ちにしております。

第24回 東京鶴翔同窓会のご案内



- 日時 平成6年7月9日(土)
13:30~16:00 (受付開始13:00)
- 場所 東京銀行協会3F
「銀行倶楽部大ホール」
住所 東京都千代田区丸の内1-3-1
電話03(5252)3791 東京駅丸の内側すぐ
- 会費 ¥8,000
(その他に年会費¥1,000(1口)以上も宜しくお願いします)
- 申込 同封の葉書をお送りください。
(6月20日必着)
- 今年は「6回生」が当番、連絡し合って、是非ご参加の程をお願いします。

祝 第24回 東京鶴翔同窓会

不動産なんでも相談コーナー
首都圏・庄内地方 他

株式会社 **ふるさとホーム**

代表取締役 **山科勝男** (48回)
三川町横山出身

東京都練馬区東大泉2-25-12
TEL 03-3978-1151(代)

木樽で漬ける漬物
野菜粕漬・民田なすからし漬・味噌良漬
庄内漬・温海かぶ

株本 長

本社 鶴岡市大山1丁目7-7 TEL(0235)33-2023
支店 鶴岡市本広町6-5 TEL(0235)22-0016

鶴翔同窓会総会のご盛会をお祝い申し上げます。

株式会社 **ホコマ電機**

代表取締役 **本間俊三**

〒228 相模原市上鶴間1-11-1 TEL 0427-46-1616(代)
昭和38年 鶴工卒 中央大学(理)温海

本間法律事務所
弁護士 **本間勢三郎** (59回)

〒103 東京都中央区日本橋茅場町1-6-2
旭ビル4階41号室
電話 03(3669)5582・0736
FAX 03(3669)0736

限りなく極上の肌を創造する文化の技
—シルク—

松岡機業株式会社

会長 **酒井忠明** (昭和10年)
社長 **田中 尹** (昭和25年)

〒997 鶴岡市大字大宝寺日本国223-5
TEL 0235-22-2404 FAX 0235-24-6368

花・蝶・登山コース図・月山の全てを 170余の写真で収録

『月山・花讃歌』 芳賀竹志著(頂上小屋主人)
B6判変形 164頁 オールカラー

発行/1500円
当社宛直接お申込みください。(送料サービス)

〒270-01 流山市流山2-296-5 / ☎0471(58)0035
FAX: 0471(58)2316 (推薦: 星野茂 76回)

村田敏総合法律事務所
弁護士 **村田 敏** (鶴岡南高77回)
慶大卒

(取扱業務)
民事事件(交通事故、借地、借家、相続、各種損害賠償等)
刑事事件、外国人事件(入国・在留資格、国籍等)
その他、一般の法律相談に応じます。

〒160 東京都新宿区新宿1-30-6 御苑イキビル3階
TEL (03) 3352-5941 (代)

はじめましょ!
しあわせの預金。

山形しあわせ銀行

山本歯科医院

院長 **山本和子**

〒171 東京都豊島区西池袋5-10-2
椿ビル2F (立教大学前)
TEL. 03 (3971) 4447 FAX. 03 (3971) 4376

酒業370年
出羽銘酒に酒あり

信純美酒 **出羽、雪**

株式会社 **渡會本店**

山形県鶴岡市大山二丁目2番8号
☎(0235)33-3262

出羽ノ雪酒造資料館

バキュームフィルター・各種濾過機・油水分離機・各種液処理装置
遠心ブロワー・集塵機・集塵機・その他各種関連システム

日本エコノス株式会社
NIPPON ECONOS CO.,LTD.

代表取締役 **小野寺 裕** (66回卒)

〒102 東京都千代田区1番町23-2 番町ロイヤルコート705
TEL (03) 3262-1528(代) ファックス(03)3262-1538

三浦産婦人科医院

三浦 光彦 (66回)
三浦 宏平
西島 重光

鶴岡市朝陽町4-10 電話 0235(22)0228

第24回 年次幹事
代表 海老名五郎
副 工藤康雄
企画 石川義吉
企画 板垣正明
広告 金井功彌
会報 本間文祐
連絡先 星野茂外
三矢正士
〇三三六九二四二

84回 中丸田島大石
91回 村田村田中川向
92回 範孝裕佐真一
93回 末沢宮賀正俊
94回 梅宮正俊
95回 芳賀村主忠浩
96回 中地江孝夫
97回 寒河江孝夫
98回 五十嵐房寛
99回 五十嵐洋功
67回 安野正一
68回 佐藤成晃
69回 寺島秀晃
70回 富樫雄一
71回 井上史雄
72回 井上史雄
73回 渡部司洋
74回 庄司史洋
75回 五十嵐房寛
76回 五十嵐洋功
77回 五十嵐房寛
78回 五十嵐洋功
79回 五十嵐房寛
80回 五十嵐洋功
81回 五十嵐房寛
82回 五十嵐洋功
83回 五十嵐房寛
84回 五十嵐洋功

米を考える

—今年のテーマによって



酒井忠明

鶴翔同窓会会長

第二十四回東京鶴翔同窓会が七月九日に開催されるよし、楽しみにしております。毎年のことながら幹事の方々準備万端いろいろと御苦労のことです。今年も三月一日卒業式、四月八日入学式等鶴翔会館に於て催されましたが、この会館立派に活用されております。出し感慨一入です。

さて、今年の東京鶴翔同窓会のテーマ、米を考え庄内に感謝する一日。ほう！と驚くやら感心するやら。米不足、米騒動の今日、過去では古米、古々米と米がだぶつき、美田をつぶして減反だ！備蓄ということなく、政治が悪いのか農政が問題なのか？両方だといふ。それに去年は冷夏により不作凶作でした。しかし庄内は一部ヤマセの被害の地以外全般にまあ〜の作、有

誇りに思う 故郷の米づくり



田中 浩

東京鶴翔同窓会会長

会員の皆様益々健康のことと存じます。

ます。

り難いことでした。庄内でも米不足の影響はありますが、しかし今年には近年にない雪多き冬、雪は豊年の兆で今年には豊作だろう。新米の出る頃になれば米騒動はおさまるだろうと、米騒動も大した心配もしてありません。

庄内は米の郷、藩政時代から農政、米作り特に力を注いで来ました。そして先祖代々善政をほどこして来ました。それ故に天保義民など、他に類をみない義拳があり米の郷の基をなした先人のおかげで庄内は誠に豊かな風土であります。親の光は七光、先祖の恩恵に生かされて居られる皆さん、遠き東京に住んで居られる皆さん、遠き

昨年には五年に一度の如松会さんとの合同々窓会を盛大に致しましたが今年「米を考え庄内に感謝する一日」をテーマに二十四回目の同窓会を持つことになりました。現在東京地区に居られる同窓生は恐らく三千人を超えるものと思はれますが同窓会参加者数も年々増えて居りますことは誠に喜ばしいことと存じます。

私達の母校は今年創立百六周年を迎えるわけですが県下数少ない古い歴史と伝統を誇る名門校であります。そして故郷鶴岡地域は予て熱望して居った地方拠点都市地域の指定が漸く実現し、昨年は鶴岡庄内の発展の新たな段階の初年度に入ったと伺って居りまして誠に喜ばしく思います。又庄内空港への増便も実現し高速交通網の整備も着々と進捗して居ることでありまして、今後の一層の発展は間違いないものと思はれ本当に嬉しく思います。

故郷は庄内の大平野に囲まれ銘柄米ササニシキの産地として我々東京在住者としても大いに誇りを感じて居ります。昨年は未曾有の冷害に見舞はれ日本全国大凶作となったわけですが、中で庄内地区の被害は他地区に較べ少なかった方と伺って居ります。これは凶作は異常気象のせい許りではなく、生産者の生産に対する熱意と愛情による結果で

あると云はれて居りますことを耳にし心から敬意を表する次第であります。それにしても、近年農家の後継者難とか嫁不足というような記事が再々目に入りますのは、本当に心が痛みます。一日も早く足腰の強い魅力ある農業育成の為の施策が確立され、後継者難とか嫁不足などということのないように願いたいものです。

最近のようにお米の流通に若干支障を来しますと、私の住んで居ります郊外のスーパーなどでも延々と続く行列が度々見られました。我々の年代の者はかの終戦後の一時期には澱粉滓、南瓜、馬鈴薯等を主食とした経験を持つて居りますからあわてることはないとも思いますが、長い間豊かさに馴れ完全自給を信じこんで居った消費者心理は又別なものかも知れません。何れにしてもこんなことも無いように願いたいものです。

さて昨年は激動の年、今年に変化の年と云はれております。又視界不良の新年を迎へたという言葉も目につきました。正に四月迄の政治経済の実態を見ますとその感を深く致します。一日も早く視界の良くなることを願って止みませぬ。

祝 第24回 東京鶴翔同窓会

〒161 東京都新宿区上落合二丁目22-12号
ウインズ落合306号
TEL (03) 5389-7981(代)
FAX (03) 5389-7982
株式会社 新東京設計事務所
代表取締役 高橋 進

山形県 善宝寺
鶴岡市大字下川
住職 斎藤信義 (昭12卒)
TEL 鶴岡 (0235) 33-3303 (代表)

スキースクール 蔵王スキー場に開校して25年目
社団法人 日本職業スキー教師協会 公認校
(有)ZAO フライツァイト シーシュレ
TEL 0427-45-6699
校長 土岐良次 (52回卒)
(西ドイツスキー教師連盟名誉教師)

自動車シートカバー・イスカバー・カーテン・医療用シート
注文製作専門
大成商会
代表者 本間章介 (58回)
〒104 中央区入船1-4-3 電話3551-1895(代) FAX 3551-1936

孟宗と梅林の里 湯田川温泉
日観連 たみや旅館
代表取締役会長 今野民彌 (昭和26年 田名 誠)
代表取締役社長 今野悦郎 (昭和34年)
常務取締役 今野睦子 (昭和39年 田姓 沢井)
〒997-07 鶴岡市大字湯田川乙15 TEL (0235)35-3111 (代)
FAX (0235)35-3116

庄内地方の歴史と民俗をたずねて
致道博物館
鶴岡市家中新町10-18 TEL 0235-22-1199
松ヶ岡開墾記念館
東田川郡村黒町松ヶ岡 TEL 0235-62-3985

- 62回 稲五郎
- 61回 山中 隆三
- 60回 村中 宣子
- 59回 村中 宣子
- 58回 村中 宣子
- 57回 村中 宣子
- 56回 村中 宣子

株式会社 西和工務店
代表取締役 西脇啓治 (52回)
〒160 東京都新宿区荒木町13番地4
住友建設ビル内
電話 03-3353-9758
FAX 03-3351-0128

建築企画・設計・監理
(有)造建築事務所
一級建築士 佐藤誠 (66回)
東京都渋谷区上原2-32-4 石井ビル402
TEL・FAX 03-3469-7526 〒151

タイスイバイク 製造・販売
大水産業株式会社
取締役社長 佐藤一郎 (46回)
本社 〒336 浦和市大間木1743
電話 0488(73)8121(代)
浦和工場 茨城県新治郡八郷町加生野564-4
電話 (八郷)02994(2)3124(代)

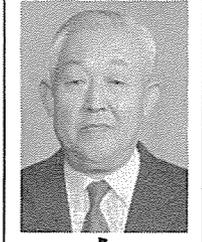
高島産業株式会社
庄内工場
代表取締役専務 後藤俊夫 (48回卒)
山形県東田川郡柳引町大字下山添字庄南39
TEL 0235-57-4212(代)
本社 東京都文京区大塚5丁目22番10号
TEL 03-3943-2751(代)

お食事は多摩そごうレストラン街で
(夜9時30分まで営業)
TAMA SOGO
京王・小田急多摩センター駅前 TEL0423(39)2111

創造新時代 TURUGEN
鶴岡建設株式会社
専務取締役 本間敏英 (69回卒)
本社 ●山形県鶴岡市泉町5番41号 〒997 Tel: 0235-4511(代) Fax: 0235-24-3240
合材工場 ●山形県鶴岡市大字勝福寺字根木147 Tel: 0235-24-1400

- 58回 柳田 俊夫
- 57回 柳田 俊夫
- 56回 柳田 俊夫

庄内の田んぼと コメづくり



大沼 済 (51回卒)

昨今は、農村地域など地方に対する社会資本投資、とくに治水、地方道、農業基盤などへの投資を抑制する気配があります。政策の中枢部にいる人の感覚が大都市型になってきた、めだ言われていますが、ともあれどんな人

も、この風景に感動しない筈はありません。農村地域の総合的な保全整備の必要に深い理解と熱意を持って戴くことに、皆様のお力添えを賜りたいと存じます。

平成五年の北日本の稲作は、ヤマセ風(偏東風)と日照不足のため、大きな被害を受けた。しかし奥羽山脈と出羽丘陵によって、冷風から二重にガードされた庄内では、さほどの被害でなかったのに、(他の被害地のためには止む得ないが)外米がセット販売された。

美味しいコメといえば、『ササニシキ』か『コシヒカリ』となるが、この先祖を辿れば『亀の尾』に行き着く。だから、庄内の篤農家(阿部亀治)なかりせば、今日の美味しいコメは無く、庄内は日本のコメの古里である。

ところで、この『亀の尾』の創出は明治二十六年、立川町立谷沢の冷水掛り田で、実りの良かった稲の発見に始まり、その後は酒米にも使われるなど東日本に広まったが、発見の年が大冷害の平成五年から、ちょうど百年前(一

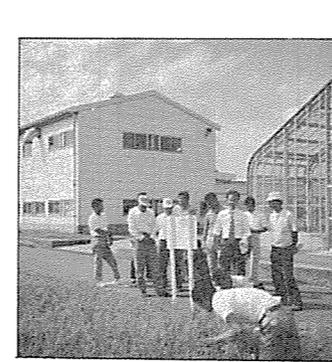
八九三年)とは、因縁が深い。この他に、明治から昭和にかけての庄内では、幾多の『篤農家』が稲の品種改良に力を注ぎ、その子孫は現在の品種に受け継がれているものが多い。十年以上も先の結果を期待して、品種改良に手間暇をかけることは並のことではなく、稲作を天命と感ずる農家が、数多く輩出していった土地柄として、時代が変わった今もまだ庄内は、コメどころとしての気概を持ち続けている。

三方を山に囲まれた庄内平野の水田は、面積三・四万畝(平成四年)、単収が六百粒で、凡そ二十万トが平年作(統計)である。太古は湖沼であったといわれ、平坦であるがゆえに地下水が高く、一昔前までは湿田が多かったが、機械化と能率化のための基盤整備が進み、八十五%までが区画拡大と乾田化した。

庄内稲作の特徴は、JA庄内経済連を中心とする官民一体の組織で、生産から流通まで打てば響く纏まりの良さである。この伝統は最近でこそ変化は大きい、藩政時代の水利や開田奨励など農政、地主対小作の協調関係などに由来し、約八百余りの集落規模が相似で、利害が共通していることによる。広い田んぼを、一株づつ手植えしていた稲作から、機械田植え稲作になったのは、昭和四十五、六年のことであるが、裕福な庄内は他地方の半分の三、四年間で完全に移行し、それまで三、四十以上の品種はササニシキに統一され、庄内米の代表ブランドとなった。

庄内の風土は何時からとなく、最上川を挟んで北側(酒田・飽海)を川北、南(鶴岡・田川)を川南と言ひ習わされてきたが、コメも流通の上では二区分される場合があった。これは川北の土が粘土質で肥えもちが良く、南部の土が花崗岩を母材とする砂壤土で、秋おち生育を辿り易いことにより、買い手市場では一般に価格差の口実に使われた。

確かに、戦前の技術水準が低い頃は、凋落はイモチ病や螟虫を誘発し、収量品質の劣ることもあったが、昭和四十八年から経済連を中心に、庄内支場、普及所、農協の一体となったコメづくり運動の展開によって、今では収量も食味も、まったく変わりにない。



▲農家の青年後継者の勉強会。(写真:大沼氏)

この運動のテーマは、『土づくり、人づくり、一等米づくり』で、有機物で土を肥やし、集落一体の話し合いを持ちながら、消費者を意識した価値の高いコメづくりを目指すもので、延々と現在も続行している。

コメ余りは昭和四十五年からであるが、とくにここ十年は顕著になり、各産地間の販売競争が起こって、例えば『あきたこまち』(秋田)、『ひとめぼれ』(宮城)などコシヒカリ系のニューフェースが登場し、消費者にアピールした。

山形県では平成三年度から庄内支場(藤島)生まれの『はえぬぎ』、『どまんなか』、『雪化粧』のルーキーがデビューし、戦列に参入して満を持している。そして、ふるさと庄内は地の利と天の恵を最大に活かし、ササニシキの有機米『ゆうきくん』、食味本位の『はえぬぎ』、『どまんなか』を重点に、これからも美味しいコメをつくり続ける。

(庄内松柏会講師・いなほ会長)

さては「王政復古」か?と喜んだが、原因は「コメ」であった。
 私のお国自慢は友人の間でつとに有名であり、「私のふるさととは米どころよ」とか、「庄内平野って、見渡す限り美しい水田でね」とか、「酒の町大山の出身だから、酒には強いんだ」とか、随分あちこちで言いふらしてきた。フン／＼と軽く聞き流してきた友人たちの脳裏に、これらの言葉が突如、珠玉の輝きを帯びてよみがえったらしいのだ。

「ねえ、お米を特別に買ってもらえないかしら」「酒屋さんが多いんですよ。酒屋さんからお米を分けてもらえない?」「米どころなんですよ。何とかしてよ」……あ、こんなに宣伝が利いていたとは思わなかった。ましてや、こんなに突然、米不足になるなんて想像すらしなかった。
 古古古米があるんだってよ、と笑っていたのはついこの間のような気がするのに、どうして急にパニックが起きたのだろうか。これまで、「米問題」

に何の関心も、何の知識も持っていなかったことを反省しつつも、当面の友人たちの要望にどう応えるべきか頭をかかえた。「前向きに検討してみる」という便利な答弁でその場をしのぎ、電話で大山の米事情を聞いてみた。農協にも米が一袋も無くなったとか、農協に農家の人まで行列していた、という返事だった。知り合いの間をかけずり廻れば何とかなるかな、とも思ったが、やめた。これ以上パニックを大きくすることに加担してはならないと踏みとどまった。みんなが騒がなければ、きつとそのうち沈静化するに違いない。

今回の「平成キケン」では、友人の役には立てなかったが、あの広々とした庄内平野の田畑がバツクに控えていることが、私に計り知れない安心感とやすらぎを与えてくれていたと再認識した。
 それにしても、お国自慢はほどほどに、ですな。(翻訳業)

今こそ、穀倉地・庄内平野の再生を計るとき

私の父親は立谷沢村(現立川町)鉢子の生れであり、母親は羽黒町手向の

門脇厚司

(66回卒)

生まれである。しかし、農家の長男であった父親は、姉に婿養子をとったと

アイガモ農法



渡部 洋

(68回卒)

「アイガモ」、合鴨とも間鴨とも書く。「カモ目カモ科」の鳥で、野生のマガモとアヒルとの雑種である。卵も食用となるが、飼育目的は食用肉の生産である(かもなべ)。アヒルの先祖がマガモですから、アイガモはいわば本家と分家が一緒になってできた新宅ともいえる。

このアイガモが「地球にやさしい」農業・米作りの助っ人として、全国各地で活躍し人々の関心を呼んでいます。

これは「アイガモ農法」とか「アイガモ水稲同時作」とかいわれ、アイガモを水田に放し、米作りで最も手のかかる「除草作業」をアイガモの口と足を借りて行い、労力の削減と除草剤の使用を減らしたり(減農薬)、全く使わない(無農薬)ようにするものです。

さらにアイガモは田の中の害虫を食べたり泳ぎ回り泥をかき回しながら暮すので、いつもフレッシュな水田に保つてくれます。

そしていつもは物静かな農村の一角がアイガモ達の参入で賑やかになり、可愛い仕草が農業の楽しさを醸し出してくれています。

このアイガモは孵化後2週間程度のヒナで小さく軟らかい雑草のみを食べます。大きくなった雑草は硬くて食べませんので、雑草がまだ小さいうちにヒナのアイガモを水田に放します。(大きく育ったアイガモを食べるように大きくイネを踏み潰してしまいます。)

ヒナが水田にいる期間は約2ヵ月で、イネが出穂する頃までですが、この間アイガモは昼夜の別なくよく働きます。アヒルは昼だけしか働かないそうですから、アヒルはトリメですが、アイガモは鳥目ではないことになり、またアイガモは水鳥ですから生まれながらにして泳ぎ上手と考えがちですが、農家でいきなりヒナを水田に放したところ、溺れ死んだという失敗を経験しています。田んぼに放す前に泳ぎを練習させる必要があります。

結構づくめのアイガモ農法ですが、ヒナ代が高いことや、逃げ出さないようにする外圍いネット代等の経費が掛かります。自分でヒナを育てることも大変ですので、アイガモを米作りの期間

いう事情があつて実家を継ぐことができません。旅に出ることを強いられた。勉強嫌いの父は義務教育を卒えて間もなく家を出、縁あつて竹中工務店に入社、そこで同郷の母と結婚した後、中国に赴任となり青島支店ついで北京支店に勤務した。青島で私が、北京で弟が生まれている。

弟が生まれてほどなくの昭和十九年春、父は現地で再び軍隊に徴集され、負け戦を予感した母はそのまま故郷の羽黒村の実家に引揚げてきた。私が庄内で暮らすようになったのはそれ以降のことになる。母の実家は星野家(今回の会報幹事である星野茂氏の実家)と真向いであり、星野氏の父君(私の高校時代の世界史の先生であり、私に庄内館の存在を教えてくれたのも星野先生であつた)の兄弟姉妹とは小学校に入る前から一緒に遊んでいた。星野氏の叔母さんに当たる美人のキクちゃんとは小学校で同じクラスであつたこともあり、子どもながらほのかな恋心を抱き大きくなったら私のヨメさんになつてくれないものかと考えたりもした記憶がある。

父が無事復員し今度は父の実家のある立谷沢に移りそこで高校卒業まで暮らすことになった。貴重な紙面を長々私事で埋めてきたが、これが庄内生れで庄内育ちの同窓生とはいささか異なる私の庄内体験ということになる。

だけリリースにしてほしいという声もあがっています。

こうして生産された米は、「特別栽培米」として良い値段で売れ、アイガモも「かもなべ」の材料として、最後まで人間に奉仕してくれます。(千葉県畜産課主幹)

母校の看板

石川義吉

(46回卒)



一九八八年(昭六三) 七月一日に母校は創立百周年記念行事を鶴岡で大々的に挙行していた。恰度あの年は、吾々四十六回生は母校を卒業後の五十年に当り、お祝いの為ガヤ／＼と鶴岡に集つただけでなく、世話方達の大変な御苦労の結果、校舎の正面玄関に筆蹟も鮮かに、県立鶴岡南高校と彫り出した看板を寄贈した。(厚さ三・六巾三十三、長さ一九八各センチ)

木材は時に鋼材よりも堅牢である。今後百年或は幸ひに更に二百年母校の栄光を祈つて寄贈してあるが、あの看板がもの云はない樺の板でなく、之から母校を訪ねるOB達や学校関係者に何処からともなく「質実剛健」の天の声を聞かしてくる事を期待してある。



私の少年時代の主舞台は月山から流れ出し清川で最上川に合流する立谷沢川とその両側に開かれた稲田とその中に点在する村々、そしてそれらを三方から囲む羽黒山、月山、板敷山に連なる山々であつた。いま想い出す立谷沢川周辺の風景とそこでの暮らしは、むせるほどの緑と豊かな水と温かい光と心を洗う雪に彩られた瑞々しさに溢れるものである。物資は乏しく生活は貧しかったが、四季は変化に富み、自然と人情は豊かで、その中で体験も豊富であつた。少年から青年にかけての多感な時期をこうした環境の中で育つことができたことを私は率直に幸いなことであつたと思う。

しかし、私が大学に入った頃すなわち日本が高度経済成長に突入した頃から庄内平野は急激に変貌した。舗装道路が敷かれ田畝が埋められ家や工場が建ち、みるみるうちに緑と潤いを失つていった。私の今の庄内平野のイメージは包帯でグルグル巻きにされ乾いた路面に放置された重傷者のようなものである。悲しくも痛ましいことである。背伸びして出羽山地や奥羽山脈越えに太平洋側を見るのではなく、日本有数の穀倉地帯である庄内平野と日本海を持ち場とした自足圏を作る。こうした踏み切りを早くつけ、庄内が再び瑞々しさと生気を取り戻すことを切に願うものである。(筑波大学教授・人間学類長)

鶴友会ゴルフコンペ 詳報



第四四回の鶴友会ゴルフコンペは千葉県総武カントリー総武コースで開催されました。

天気予報では雨の予報に拘らず当日は五月晴れの好天に恵まれ楽しい一日を過ごしました。

チャンピオンコースのため、シルバードの我々には、苦戦を強いられるケースが多かつたようですがさすがメンバリーの丸山政志氏(六二回卒)が四一・三六クロス七七の好スコアで見事優勝です。

二位はクロス八六で上野誠氏(五二回卒)他は個人の名譽のため伏せておきますが紅一点の細川睦さん(六一回卒)が白マークから男性顔負けのショットでクロス一〇五と健斗しました。

次回は一〇月六日(木)同じ総武カントリー印旛コースで行います。

申込は トミーゴルフ・平野悌二郎 (旧姓地主 六〇回卒) TEL〇四五十六六二一〇二〇七 迄 若手と女性の参加を期待しています。